GIFAふれんどしっぷ
GIFAはGujo Hachiman International Friendship Associationの略です

Vol.52

発行
郡上八幡国際友好協会

「互いに学び・助け合おう！」

会長　辻　治美

新型コロナウイルス感染症の位置づけが５類感染症になり、マスクを着けておられない方を見ても違和感を受けない時が漸くやってきました。もちろん油断はできませんし、心配りは必要だと思いますが、郡上でも観光客が一気に増え町も賑やかになりわくわくしてきました。郡上おどりもほぼコロナ前の日程で開催されると伺い、楽しみにしております。

ＧＩＦＡの活動も、昨年度までリモート開催、また中止されていたプログラムも今年は対面式での開催に向けて計画中です。早速、岐阜大学医学部よりお声をかけて戴き、コロナ前お受けした「南フロリダ大学医学部との交流事業」を５月26日（金）にお受けしました。八幡小学校を訪問させて戴き、学校給食の現状について説明を受けた後、給食や校内の掃除を一緒に体験、次に６年生との交流会等貴重な時間を過ごされ、皆さん大満足され有意義な活動を行うことができました。

７月15日（土）、16日（日）は岐阜大学サマースクールの郡上八幡プログラムが再開されます。今年は残念ながらホームステイは行いませんが、学校訪問、市内散策、郡上おどり体験、茶道体験等と「インターナショナルカフェ（ホームステイ受入体験・交流の場）」を開催予定です。また、「やさしい英会話教室」「やさしい日本語教室」「世界の料理教室」も対面式で計画しています。

コロナ感染防止から沢山学ぶこともありました。はじめは「交流事業、対面式事業・会議等、人が集まることは何もできない」とただただ恐怖心が高まり、後ずさりするばかりでしたが、リモートでの会議や交流の良さも発見しました。岐阜大学留学生や香港の大学とのリモート交流も事前に準備した観光案内のビデオをみて戴いたり、郡上踊り講座を行ったり、小学生との交流にチャレンジしました。受講生からは「日本に行った気持ちになれました。ぜひ岐阜県に行きたいです。」との感想を戴くこともできました。実際昨年の受講生が今年のプログラムに参加してくれると伺い再会が楽しみです。「何もできない」と結論づける前に「どんな工夫ができるだろうか」と皆に相談することの大切さを実感しました。

コロナ禍、疎遠になってしまった「国際交流・国際理解」の重要性はいろいろなニュースからも感じます。世界平和の為に郡上にいながらできる国際交流のボランティアも沢山あります。工夫しながら活動し、この輪を広げて行きたいと願っています。今年も宜しくお願い致します。

総　会

郡上市国際交流推進協議会の活動について

4月26日、令和5年度の総会が開催されました。以下、二つの事業を実施することを決定しました。

① 日本語ボランティア養成講座

市内に暮らす外国人の語学支援に向けた人材育成の機会として、今年で4回目の開催です。受講者へは、後に八幡・白鳥各協会が行う「日本語教室」にボランティアとして参加するよう促していきます。

日程：八幡会場／7月3日（月）・4日（火）
白鳥会場／7月10日（月）・11日（火）
講師：柏谷涼介先生（セントラルジャパン日本語学校主任教員）

② 日本語教室への講師派遣

日本語教育有識者をアドバイザーとして派遣する県の事業で、教室運営のサポートや課題解決に向けた相談等が可能です。昨年は養成講座の実地指導として柏谷先生を各教室のボランティアをサポートいただきましたが、今年はこの事業を活用して団体の支援を行ってきます。

郡上八幡国際友好協会では、7月のボランティア養成講座から10月の日本語教室までに期間が空くため、その間（9月頃）にボランティアを含めたミーティングなどの開催を計画していきます。

昨年の日本語ボランティア養成講座の様子

また、外国人活躍・共生社会推進課 水野課長補佐兼多文化共生係長と、安藤日本語教育総括コーディネーターにも総会に出席いただきました。水野課長補佐からは、県の在住外国人は増加傾向にあり、働き手はもとより定住者も増加している。こうした現状を踏まえ、外国人県民が安全安心に生活できる環境づくりに向け取り組んでいる。具体的には、相談窓口（国際交流センター）の設置、災害時に外国人が確実に避難するための外国人向け防災対策、医療機関の受診支援等である。これらについて、日本語教育が大きな課題と捉え、施策を進めていると説明がありました。また、安藤コーディネーターからは外国人施策、岐阜県外国人材活躍・多文化共生推進基本方針、岐阜県日本語教育の総合的な体制づくり実施計画について紹介していただきました。

辻副会長は、「私たちができることは小さなことかもしれないが、地域の皆さんと協力し合い輪を広げていきたいと思っている。暗中模索のところであり、引き続き皆さん（市・協議会・白鳥）のご指導をお願いしたい」と述べました。

世界の料理を楽しむ会

～ アメリカ合衆国 シンシナティチリ ～

３月に、３回目となる「世界の料理を楽しむ会」も番組を撮影いたしました。郡上八幡ローカル放送局ING様にご協力いただき、「料理番組」に取り組みました。令和５年度は、「世界の料理を楽しむ会」料理教室形式で異文化とふれあうかたちでの開催を計画してまいります。世界の料理を紹介してくれる方の紹介をお待ちしております。

講師は、郡上市ALTのトーマス先生です。アメリカ出身です。母国で、家族と一緒に食べた「シンシナティチリ」がとても思い出にのこっているメニューだそうです。正式な作り方は、一晩煮込むそうです。今回は、日本の家庭でも作りやすいレシピアレンジをしました。スパゲッティだけでなく、チリホットドックも美味しいメニューでした。

レシピを見て、おうち時間で国際文化を楽しんでいただきたいです。

INGでの放送日は、決まり次第、ホームページ、公式LINE、公式Facebookページでお知らせします。

世界の料理を楽しむ会
レシピQR

小森三大君の国際交流体験記

郡上市八幡町出身の小森さんが大学時代の貴重経験を語ってくださいました‼

強烈な悪臭が鼻を突いた。見渡す限りのゴミ、ゴミ、ゴミ。車道ぎりぎりまで積み上げられたゴミの壁は４メートルはあるだろう。ハエが飛び回り、ヤギや犬がゴミを物色する中、人々は袋と熊手のようなものを手に、ゴミの中を歩き回っていた。

ここは、ジンベイザメと一緒に泳げることで有名なリゾート地であるフィリピンのセブ島だ。途上国における貧困層の暮らしに興味があった私は、大学2年生の春休みにグローバルボランティアの授業の一環としてこの地にやって来た。セブ島では急速に観光地化が進む街の中心部とその周りの格差がかなり激しい。映画館やお洒落なレストランが立ち並ぶショッピングモールがあるかと思えば、そこから一本路地に入ればトタン屋根のスラム街が広がっているという具合だ。まさにリゾート開発の光と闇。その顕著な例として挙げられるのが、今回訪れたゴミ山だった。

ゴミ山の情報は事前に調べていたものの、実際にバンから降りその景色を見た瞬間私はとてつもない衝撃を受けた。35度を超える熱波と強烈な悪臭が全身を覆い、嗚咽と涙が止まらなくなる。地球ではない別世界に連れてこられたような感覚に陥った。

より実態を探りたいと1人のスカベンジャー（ゴミ山から金目のものを探して売る人）の男性に話しかけると、彼は35歳で3人の子供を持つ父親だという。ゴミを拾う仕事で稼げるのは週に３００ペソ（２３００円）程度だが、他の仕事につくことは考えていないし、今はこの仕事でなんとか生計を立てていると彼は言った。

驚くべきことにこの巨大なゴミ山はたった2年で完成したという。環境破壊、環境汚染、悪臭、病原菌の繁殖など劣悪な環境が生み出す人々への悪影響は計り知れない。しかし、そこ

で働き、生計を立てている人たちがいる。ゴミ山を無くすことは早急の課題であるが、全ての地域にゴミ処理施設を作ることも出来ない。そして、その結果生まれた状況でお金を稼ごうとする人々が誕生するという訳だ。「貧困がさらに貧困を産む」と言えるだろう。

つまり、「ゴミ山をなくす」という問題を解決する為には、そのバックグラウンドにある複雑に絡み合った問題を１つ１つほどいていかなければ根本的な解決をすることはできないのだ。例えば、今ある巨大なゴミ山のゴミを焼却施設のきちんとしている町へ運び全てを処理してもらったとする。確かにそこにあるゴミは見えなくはなるが、それは持続的な対策とは言えない。連立方程式の分からない中学生に答えだけを教え、夏休みの宿題をただ終わらせることに学力向上は望めるだろうか。

問題を持続的に解決していくためには、解決の道のりで新たに発生する問題にも目を向け、人々と行政は働きかけていかなければならない。例えばスカベンジャーに対しては次の仕事を紹介するといったことが必要になるかもしれない。１つの問題を点的に排除しただけでは、後ろに存在する大きな問題にすぐに押し潰されてしまうのだ。

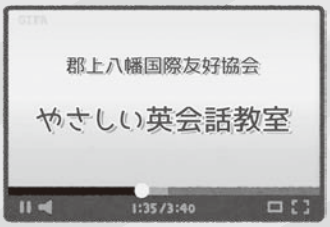
高校を卒業するまで郡上八幡で育った私が、地元に恩返し出来ることは何かと考える。人口減少、少子高齢化、後継者不足といったどんな田舎の街も抱える問題に加え、郡上おどりや美しい自然をどのように保全していくのか。単一的な取り組みではなく、街全体で問題を面として捉え、人と自然が調和した住みよい街づくりの実現のために、私も微力ながら貢献していきたい。

「やさしい英会話教室」開催

動画配信紹介

「やさしい英会話教室」は30年以上続いています。今年も昨年に続き、英会話フレーズを取り入れた動画を撮影し、ケーブルテレビで放送予定です。放送日はホームページをご確認ください。英会話を楽しみながら学べる新しい形式です。是非、みてください。

URL　https://youtu.be/Cr29fhj1cGs



地の様子について紹介していただきました。

英　語

New Zealand and Covid-19

Judy Evans
1 April 2023

After shutting its doors to overseas arrivals in March 2020 and going into a strict nationwide lockdown that same month, New Zealand transitioned to “living with covid” in 2022, abandoning its “zero-covid” policy. Our borders fully reopened to overseas arrivals in July 2022, and most other restrictions, including gathering sizes and mask mandates, were dropped in September 2022 - although mask wearing is still mandatory in health care and aged care settings currently.

Vaccination levels are relatively high. Around 90 percent of New Zealanders over the age of 11 have received their primary course of two injections (Pfizer), and around 75 percent of adults have received at least one booster shot. Due to high vaccination levels, particularly among the elderly, and to the government’s early zero-covid policy, the number of covid-related deaths is much lower than countries such as Singapore, South Korea and Australia, which had similar policies.

The counter-measure that had the greatest impact on the population was our first nationwide lockdown, which lasted for seven weeks from 26 March to 13 May 2020. Apart from essential services (such as healthcare, supermarkets, police and power companies), all shops and workplaces closed. The sudden transition to working and learning from home was challenging for many, particularly for teachers and students, who had to rely on digital platforms such as Zoom and Google Classroom or Microsoft Teams. A new word was invented, “zui”, which combines the word “zoom” with “hui”, the Māori word for meeting.

The lockdown also had a negative effect on businesses such as tourism and hospitality, which suffered from a lack of customers. Mercury Bay, where I live, is a popular holiday and weekend destination for people from the cities. We had a long period of time when Aucklanders were not allowed to leave their own region due to covid outbreaks in the city. Although this was difficult for a few local businesses that depend mainly on Aucklanders for their income, most locals really enjoyed the peace and quiet that resulted from the lack of visitors.

However, New Zealanders are very fond of travel and although we were unable to travel internationally, we began travelling more and more domestically. This really helped the tourism and hospitality industry. Spending so much time at home sparked a flurry of renovation projects as people began to spend time and energy (and money!) on improving their living environments, which in turn boosted the DIY and building industry.

Covid is by no means a thing of the past in New Zealand. There are about 11,000 cases reported each week and around 2,600 people have died from the virus since the pandemic began. However, nowadays there are very few stories in the news about covid and our “zui” era is long forgotten. This is very different from 2020 and 2021, when covid was always the main topic of conversation.

ニュージーランドのおはなし　ジュディ先生から、NZ現

日本語

2020年3月に海外からの到着を禁止し、同月に厳格な全国的なロックダウンに入ったニュージーランドは、2022年に「コロナウイルスと共存する」方針に転換し、「ゼロコロナ」政策を放棄しました。2022年7月には、国境が完全に開放され、集会規模やマスク着用義務などのほとんどの制限が同年9月に撤廃されましたが、現在も医療や老人介護施設の現場ではマスク着用がまだ義務付けられています。

ワクチン接種率は比較的高いです。11歳以上のニュージーランド人の約90％が2回の接種（Pfizer）を受けており、成人の約75％が少なくとも3回目のブースター接種を受けています。高齢者を中心にワクチン接種率が高く、政府の早期のゼロコロナ政策のおかげで、同様の政策を採用したシンガポール、韓国、オーストラリアなどの国々よりも、コロナ関連の死亡者数は少なくなっています。

私たちに最も大きな影響を与えた対策は、2020年3月26日から5月13日までの7週間にわたる初の全国的なロックダウンでした。必要不可欠なサービス（医療、スーパーマーケット、警察、電力会社など）以外の店舗や職場は全て閉鎖されました。在宅勤務やオンライン学習への急激な移行は多くの人にとって大きな課題でした。特に、ZoomやGoogle Classroom、Microsoft Teamsなどのデジタルプラットフォームに頼らなければならなかった教師や生徒にとってはさらに困難でした。新しい言葉「zui」が生み出されました。これは、「zoom」とマオリ語の「hui」（会議という意味）を組み合わせたものです。

ロックダウンは、観光業やホスピタリティ業などのビジネスにも悪影響を与え、顧客不足に苦しんでいました。私が住んでいるマーキュリーベイは、都市部からの休日や週末の人気のある観光地です。オークランドでのコロナウイルスの発生があったため、長期間にわたりオークランドの人々は自分たちの地域を出ることができませんでした。この状況は、収入の大部分がオークランダーに依存する一部の地元企業にとっては困難でしたが、大部分の地元民は、逆に訪問者の不在による安穏無事を楽しんでいました。

しかし、ニュージーランド人は旅行が大好きであり、海外旅行ができないぶん、国内旅行がますます増えていきました。これにより、観光業やホスピタリティ業が少し活性化しました。自宅で過ごす時間が増えたことから、人々は生活環境を改善するために時間やエネルギー（そしてお金！）を費やし始め、それがDIYや建築業界も活性化させました。

ニュージーランドにおいて、コロナウイルスは決して過去のものではありません。週に約11,000件の感染が報告され、パンデミックが始まって以来、約2,600人が亡くなっています。しかし、現在では、コロナウイルスに関するニュースはほとんどなく、私たちの「zui」時代は忘れ去られています。これは、コロナウイルスが常に話題の中心だった2020年と2021年とは非常に異なる状況です。

法人会員一覧

敬称略・順不同

㈱大原林産
㈱カー・ポート・マドカ
㈱ 木越組
㈲キング
郡上八幡ホテル積翠園
郡上合板㈱
郡上板金企業組合
(一財）郡上八幡産業振興公社
国際ソロプチミスト岐阜 - 郡上
㈱三栄コンサルタント
庄村学習塾
十六銀行㈱八幡支店
㈱ 高垣組
㈱大日造園土木
㈲トップス
N.A.O 明野高原キャンプ場
八幡信用金庫
八幡病院
ベイホックトラベル㈱
堀谷医院
松田土木㈲
㈱丸芳組
㈱ミノグループ
㈱ヤマシタパッケージ
㈱水のまち郡上八幡　流響の里

5月18日

南フロリダ大学来訪

コロナ前、対面式で開催していたプログラムの一つが再開され、早速岐阜大学医学部（山本真由美教授）からお声をかけていただきました。南フロリダ大学医学群学生18名が日本の給食、掃除を八幡小学校で体験しました。八幡小学校児童たちと交流し、郡上八幡お囃子クラブにご協力いただき、郡上おどりの体験をしました。

はじめに、学生たちは、学校給食栄養士金森先生から郡上市の給食について話を聞きました。次に児童たちに校内を案内してもらい、掃除の時間は、雑巾がけなどを体験しました。久しぶりの留学生との対面交流に熱心に取り組む児童たちの輝く瞳が印象的でした。その後、学生たちは市内散策、文化体験では食品サンプル体験をしました。

▶学校給食について話をきく学生

郡上の水がきれいなことに驚く学生たち

食品サンプル作り体験！

郡上踊り体験！

浴衣を着て、八小児童たちと

ALT 紹介

郡上市の ALT（英語指導助手）の先生にインタビューしました。
町で見かけたら気軽に声をかけてあげてくださいネ！

Darren Murphy
ダレン・マーフィー

出身▷英国、イギリス　サウスエンド・オン・シー
専攻▷木工、大工
趣味▷木工・木のスプーン等
所属学校▷西中、郡南中、三城小、吉田小
好きな食べ物▷鰻
郡上の人にメッセージ
▷いつも親切にしてくれてありがとうございます。
街で見かけたら声をかけてくださいね。

「やさしい日本語教室」開催のお知らせ

受講生と日本語ボランティア募集

《日　時》10月5･12･19･26日　11月2日
毎週木曜日　19:30～21:00

《受講生参加費》1000円
（５回分・教科書代含）

《場　所》郡上市総合文化センター
４階会議室
(19日のみ郡上市産業プラザ4階)

みなさんのお近くに、日本語を学びたい外国人の方が
いらっしゃいましたら、ご紹介ください！

会員募集中

国際理解や交流のボランティアに興味がおありの方、
ぜひ一緒に活動しましょう。

◆お申し込み・お問合せ
郡上八幡国際友好協会
(郡上市役所秘書広報課内)
☎ 0575-67-1147

https://gifa.info　facebook　友だち追加